

# 中高一貫だより

<編集・発行>  
えりも地区連携型  
中高一貫教育  
推進委員会事務局

## 環境教育フィールド学習B～高校での取組～

9月19日(水)、中高一貫教育カリキュラムの一つである「百人浜フィールド学習B」を行いました。この事業は、国が1953(昭和28)年から行っている百人浜治山緑化事業を、2006(平成18)年から中高一貫の郷土学習・環境教育に取り入れ実施しているものです。6月に中学生が植樹、9月に高校生が枝打ちすることで、さらなる緑化と先人が守ってきた森林の保全に取り組んでいます。

はじめに、えりも岬林業研修センターにて「林業の仕事」のDVDを鑑賞しました。地元えりも町、様似町を中心に仕事をしている方々のインタビューなどもあり、生徒たちは自然に携わる仕事に関心を高めていました。その後開講式が行われ、えりも町教育委員会教育長 川上松美 様、および日高南部森林管理署長 春山邦明 様から、生徒に向けて御挨拶と激励をいただきました。その後、日高南部森林管理署・えりも治山事業所の瓜田元美 様 から説明がありました。本日枝打ちをするクロマツは、植えられてから25年経ったものだそうです。



開講式終了後バスに乗車し、生徒が中学時代(2年前)にカミネッコンと呼ばれる紙で作られた植木鉢で植樹した場所に行きました。自分が植樹したことがわかるように、ネームプレートがついています(写真左)。それぞれが自分の名前を見つけることができました。

その後、百人浜駐車場近くの枝打ち箇所へ移動して、枝打ち作業を約1時間実施しました(写真右)。自分の背の高さくらいまでの枝を切り落とすことで、通気を良くし、土壌に光を当てて、木がより丈夫に成長できるようにします。今年は枝打ちする面積が広く、沢山のクロマツの枝打ちができました。枝打ちしたあとは、太陽の光が沢山差し込んできました。枝を切り落とすのはとても楽しかったようです。今回も、えりもの環境について深く学習することができました。ご協力いただいた皆様、ありがとうございました。



百人浜事業を終えて・・・生徒のレポートより

## 1年A組 鎌田 愛美

2年前に自分たちで植えた木がすくすく成長していたので、見た瞬間うれしく思いました。森林の中に入った途端、空気がすごくきれいで、「木っていいな」と思いました。

枝落としの作業は想像していたよりもずっと大変でしたが、環境のためにやっていることなので、すごくやりがいを感じました。

プロジェクトXで見たえりも岬と現在のえりも岬は、まるで別世界で、長い時間とてつもない労力を費やしてきたのだと思えました。

何十年も前から受け継がれてきた緑化事業に自分たちも加わることができ、誇りに思います。ふるさとであるえりも岬を、これからも大切に考えていこうと強く感じました。

## 1年A組 田中 惠菜

今ある森林の中には、誰かの手によって大切に育てられてきた木があると思うと、自分たちも何かできることをしていかなければいけないのではないかと改めて思いました。

2年前に植えた木が、思ったよりも伸びていなくて驚きでした。成長するまで長い時間を要する木の大切さを改めて実感しました。私が植えた木は、1本枯れていました。周りの草の多さや、動物が食べてしまうことにより最後まで成長せずに枯れてしまう木もあるそうです。

一本の木を育てるために、たくさんの時間と手間と苦勞が必要です。実際に枝落としを体験しましたが、すごく大変でした。だからこそ、今ある木を大切にすること、みんなで協力して木を増やしていくことがこれからの私たちがしなければならないことだと思えました。

## 1年B組 吉井 響基

林業に関わっている人たちは、森林を守り続けるためにどうしたらいいかを考えていて、自分たちも漁業に関わっている人が多数いるので、林業も漁業も互いに影響をどのように与え合っているのかを考えて、林業に関心を持つことが大切だと思えました。

実際の枝落とし作業は大変でしたが、自分たちの生活や身近な環境について関心を持てたことが2つありました。1つ目は、植樹した木が成長していたり枯れていたりしていましたが、共通していたことは2年間が短く感じるほどの変化だったということです。森を大切にすることの大切さを身に染みるほど感じました。2つ目は、枝落としだけでも大変な作業でしたが、その他の作業も林業に携わる方々は毎日続けていらっしゃるということです。仕事をするということは大変だと感じましたし、自然を相手にして木を大切に守り続けることが難しいということも改めて思いました。今回の活動を通して、海と森林が深くかかわっているということを実感しました。

## 1年B組 杉本 夏美

自分たちが中学生のときに植えた木が枯れていなくて安心しました。でも、思ったより大きくなかったので木の成長スピードがゆっくりだということがわかりました。

木の間伐では、前に枝があって邪魔だったのですが枝落としが終わった後はスッキリとして自分もスッキリしました。また、余計な枝を切ることで、その分の栄養が他の部分に送られ、より成長することにびっくりしました。邪魔だから切るという人間の都合だけではなく、木のことも考えていいなと思えました。

木があることで海がキレイになり、そのおかげでたくさんの昆布が取れるので、森が豊かなことが一番だと思えました。これからは森を大切にしていきたいです。